

都市再生整備計画

のっぽろえきしゅうへん
野幌駅周辺地区

ほっかいどう えべつし
北海道 江別市

平成28年12月14日

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	江別市	地区名	野幌駅周辺地区	面積	240 ha
計画期間	平成	29	年度	～	平成	31	年度
				交付期間	平成	29	年度
					～	平成	31
							年度

目標

大目標「市民みんなが行ける賑わいと魅力ある都心づくり」

目標1:野幌駅を中心とした拠点街区と、緑空間や商業・観光交流拠点をつなぐ魅力ある安全・安心な歩行者ネットワークづくり

目標2:都心地区における市民の憩いの緑空間づくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

江別市は、石狩平野の中央部に位置し、北部には北海道の母なる川「石狩川」と、南部には世界有数の平地原生林である「北海道立自然公園野幌森林公園(2,051ha)」を擁する、水と緑に恵まれた、人口約12万人のまちである。また、道都札幌市に隣接した札幌経済圏であり、札幌駅まで快速電車で約15分、新千歳空港まで車で約45分、北海道縦貫自動車道の二つのインターチェンジがあるなど、交通網が整備された恵まれた立地条件となっており、「緑豊かな生活文化都市」、「広域交通の要衝」として発展してまいりました。

その都市構造は国道12号を都市軸として、JR函館本線の鉄道駅を中心に「江別」、「野幌」、「大麻」の3地区に平均化した構造となっており、市街地の顔となるような中心性が高い地区が形成されていない状況でありました。

その3地区の中で、近年、野幌地区では国道12号沿道の商業・業務施設の集積や駅周辺における飲食店の集積、電車本数の増加や高速化、札幌まで約15分という便利な立地条件等から、マンションや商業施設の集積が活発に行われ、都市化が進んでいる状況であります。

また、江別市都市計画マスタープランでは、駅を中心とした集約型都市構造～えべつ版コンパクトなまちづくり～を都市づくりの目標の1つとして掲げ、さらに野幌駅周辺地区を江別市の都市活動の拠点として中心市街地に位置づけ、江別市の「顔」となるよう、都市機能の充実や土地の複合・高度利用、江別らしい景観の形成や歩行系道路の充実など、人にやさしく中心市街地にふさわしい魅力ある都市空間の形成を行う事を方針として定めております。

現在江別市では、野幌駅を中心とした約240haを都心地区と設定し、「南北市街地の一体化によるコンパクトな市街地形成」と「都市機能の充実による中心市街地活性化」を目的とし、歩いて暮らせるまちづくり、「市民みんなが行けるにぎわいと魅力ある市民交流拠点づくり」をテーマとした、都心地区整備基本計画を平成17年3月に策定し、平成18年度より「江別の顔づくり事業」を推進している。

課題

現在、野幌駅周辺地区においては、区画整理事業や街路事業などによる基盤整備を推進しているところであるが、少子高齢化や人口減少、経済情勢の影響による商業施設の減少などにより、中心市街地の賑わいが不足している。地区内の居住人口や歩行者通行量も年々減少の傾向にあるほか、交流拠点となる施設等の不足、交通結節点や商業施設等をつなぐアクセス性の向上が課題となっており、魅力ある都市空間の形成が求められている。

将来ビジョン(中長期)

・第6次江別市総合計画において、当地区にはぎわいのある都心づくりをめざして、土地区画整理事業や街路事業等による総合的な市街地整備や、地元活性化協議会等との連携による地域活性化の支援、環境に配慮したまちづくりなどを一体的に進めると位置づけられている。

・江別市都市計画マスタープランにおいては、江別市の都市活動の拠点として中心市街地に位置づけられており、江別市の「顔」となるよう、都市機能の充実や土地の複合・高度利用、江別らしい景観の形成や歩行系道路の充実など、人にやさしく中心市街地にふさわしい魅力ある都市空間の形成が方針とされている。

目標を定量化する指標

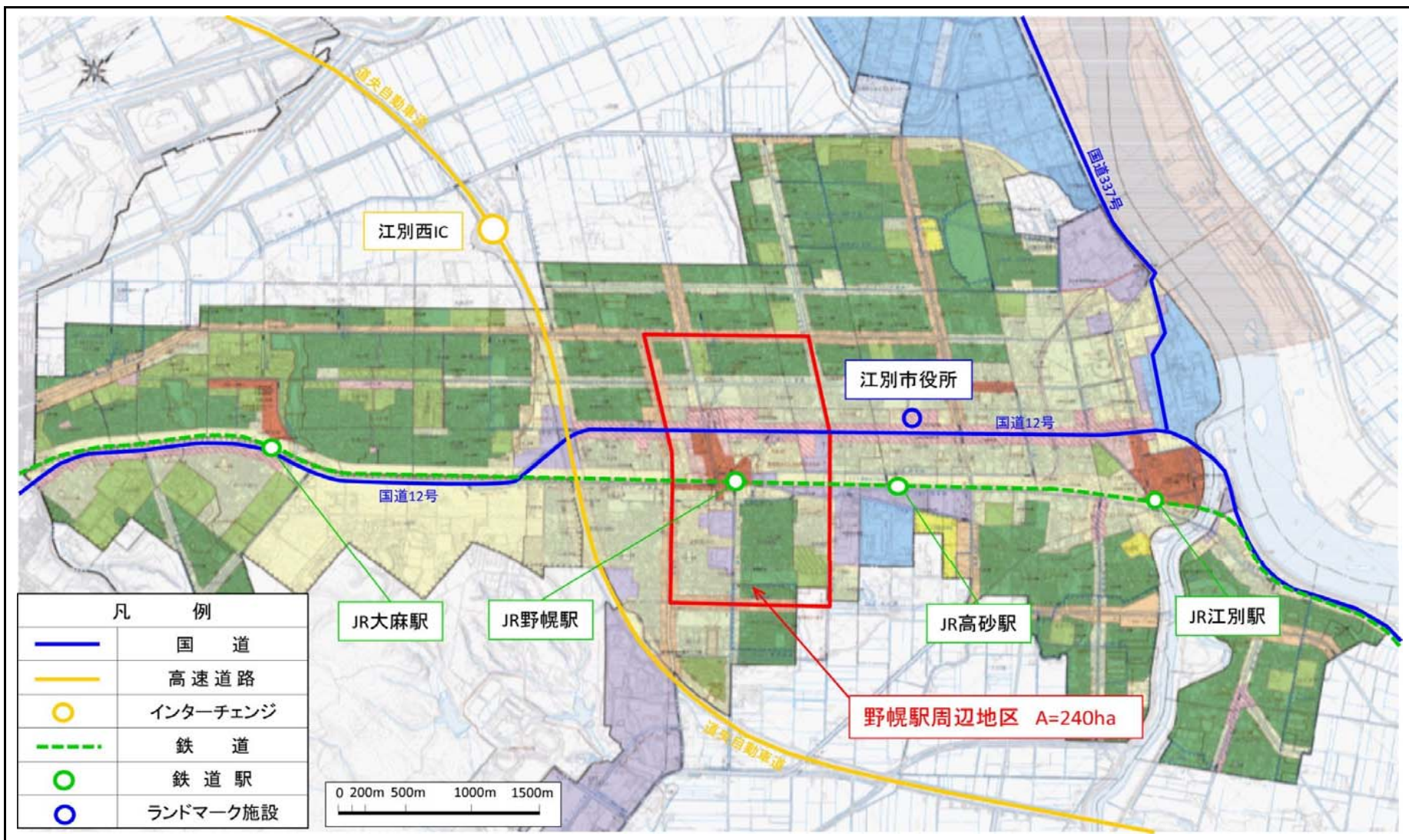
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	目標年度	
交通結節点と都市緑地、商業・観光交流拠点間の歩行者・自転車通行量	人/12h	野幌駅と都市緑地及び商業・観光交流拠点を結ぶ路線の歩行者・自転車通行量	賑わいと魅力ある都心づくり、魅力ある歩行者ネットワークづくりの達成状況を、駅と都市緑地、商業・観光交流拠点を結ぶ歩行者・自転車通行量で評価する。	2,472	H27年度	2,700	H31年度
都市緑地におけるイベント回数	回/年	都市緑地を活用したイベントの実施回数	賑わいと魅力ある都心づくり、市民の憩いの緑空間づくりの達成状況を、都市緑地を活用したイベント回数で評価する。	0	H28年度	3	H31年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(魅力ある安心・安全な歩行者ネットワークづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅を中心とした歩行者ネットワーク整備により、緑空間や商業・観光交流拠点等との連絡性を高め、中心市街地の賑わいを創出する。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域生活基盤施設(緑地):都市緑地整備 高質空間形成施設(緑化施設等):東西グリーンモール整備 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活用調査:事業効果分析調査 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連続立体交差事業(完了済):JR函館本線(野幌駅付近) 区画整理事業:野幌駅周辺地区 街路事業:8丁目通街路事業、野幌駅南通第2工区・旭通街路事業、白樺通平面化 街路事業(完了済):中原通第2工区・南大通 道路事業(完了済):東野幌160号道路(7丁目通り)、高架下駐輪場、天徳寺グリーンモール整備事業
<p>整備方針2(市民の憩いの緑空間づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅を中心に東西南北につながる、緑とレンガが調和したグリーンモール整備により緑空間の創出を図る。 ・都心地区に残る貴重な緑である鉄道林を都市緑地として整備・保全し、市民の憩いの緑空間の創出を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域生活基盤施設(緑地):都市緑地整備 地域生活基盤施設(情報板):案内板、解説板整備 高質空間形成施設(緑化施設等):東西グリーンモール整備 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域創造支援事業:都市緑地PR事業 事業活用調査:事業効果分析調査 まちづくり活動推進事業:市民参加のまちづくり事業(ワークショップ等) <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業:野幌駅周辺地区 道路事業(完了済):天徳寺グリーンモール整備事業
<p>その他</p> <p>【住民参加のまちづくりの取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度に、野幌地区都市緑地等整備検討委員会を設立。同委員会は、地元の学識を有する者、自治会・市民団体などに所属する者、市民公募による者、合計9名により構成。都市緑地やグリーンモールの整備・保全方針や、整備後の維持管理等を含めた基本構想の検討を行う。 <p>【地元組織によるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 江別の顔づくり事業によるまちづくりと併せ、野幌駅周辺地区の魅力向上を目指す活性化計画の策定と推進を目的として、地元事業者、事業者、住民、土地・建物所有者が主体となり、平成18年11月に野幌駅周辺地区活性化協議会を設立。平成20年2月には野幌駅周辺地区活性化基本計画を策定(平成21年9月一部見直し)。その後もイベントを開催するなど、地域の活性化に寄与している。 <p>【交付期間中の計画の管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交付期間中は都心整備課が中心となり、定期的に事業進捗状況や事業進捗上の問題点について関係各課と連携して確認することにより、事業遅延等のリスクを削減させる。 <p>【上位計画への位置付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第6次江別市総合計画基本方針「市街地整備の推進」の中で、にぎわいのある都心づくりを目指して、土地区画整理事業や街路事業等による総合的な市街地整備や、地元活性化協議会等との連携による地域活性化の支援、環境に配慮したまちづくりなどを一体的に進める地区として位置付けている。 ○ 江別市都市計画マスタープラン2014【改訂版】野幌駅周辺を、江別市の都市活動の拠点として中心市街地に位置付け、江別市の都市活動の拠点として、江別市の「顔」となるよう、都市機能の充実や土地の複合・高度利用、江別らしい景観の形成や歩行系道路の充実など、人にやさしく中心市街地にふさわしい魅力ある都市空間の形成を図るほか、バリアフリー化の推進による安全で快適な歩行空間整備を行う掲げている。また、野幌地区の地域別構想の中でグリーンモール整備による緑の創出や、鉄道林、公園などの適正な管理・保全により、緑豊かな都市空間の形成を図り、都市の緑のネットワークを保全・創出するとし、野幌駅周辺都市緑地(鉄道林)については、都心の希少な自然、市民の憩いの緑空間として整備・保全を検討すると位置付けている。 ○ 江別市 まち・ひと・しごと創生総合戦略 駅を中心とした暮らしやすいまちづくりを施策として掲げ、当地区をにぎわいのある都心づくりを目指して、土地区画整理事業や街路事業等による総合的な市街地整備や、地元活性化協議会等との連携による地域活性化の支援、環境に配慮したまちづくりなどを推進する地区に位置付けている。 ○ 江別市緑の基本計画 江別市特有の緑のあり方として、鉄道林は江別市の「緑の骨格」のひとつであり、都市環境や快適な生活環境の向上、防災機能の観点などから貴重な緑地空間として、所有者の負担軽減や理解と協力を得ながら適切な維持管理のもと市民ぐるみでの保全をはかるとし、鉄道林のうち野幌駅周辺は、都心地区における希少な自然、市民の憩いの緑空間として、都市緑地の整備を検討するとともに、保全を図ると位置づけている。その他、生物多様性の確保に配慮した緑の保全と創出のなかで、東西エコロジカルネットワークにも位置づけられている。 ○ 都心地区整備基本計画 都心の希少な自然、市民の憩いの緑空間として、野幌駅東側の鉄道林(約2.2ha)を都心の「都市緑地」として整備保全すると位置付けている。また、7丁目通によりアンテナショップ(現EBRI内)と一体的に緑の市民交流空間の形成をはかると位置付けている。既存の緑を活かしながら景観的に美しく、歩いて楽しいまちをつくるため、野幌駅から南北、東西に繋がるグリーンモールを整備し、これを骨格とする緑の歩行者自転車ネットワークを形成するとしている。 	

都市再生整備計画の区域

のっほろえきしゅうへんちく ほっかいどう えべつし 野幌駅周辺地区(北海道江別市)	面積	240ha	区域	野幌町、野幌代々木町、東野幌本町、野幌東町、東野幌町、東野幌、錦町、幸町、あさひが丘
--	----	-------	----	--



野幌駅周辺地区(北海道江別市) 整備方針概要図

目標	大目標「市民みんなが行ける賑わいと魅力ある都心づくり」	代表的な指標	交通結節点と都市緑地、商業・観光交流拠点間の歩行者・自転車通行量 (人/12h)	2,472 (27年度) → 2,700 (31年度)
	目標1: 野幌駅を中心とした拠点街区と、緑空間や商業・観光交流拠点をつなぐ魅力ある安全・安心な歩行者ネットワークづくり		都市緑地におけるイベント回数 (回/年)	0 (28年度) → 3 (31年度)
	目標2: 都心地区における市民の憩いの緑空間づくり		()	(年度) → (年度)

